

第2学年 音楽科学習指導案

日 時：平成17年10月5日（水）

学 級：2年1組 男子17名 女子18名計35名

- 1 題材名 混声三部合唱の味わい
教材名 混声三部合唱『自分らしく』
松井孝夫 作詞・作曲

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

年度始めに実施した昨年の合唱に関するアンケートの結果では、本学級の約8割の生徒が、合唱に取り組む姿勢の面で、『まとまりが無かった、まじめにやれなかった、集中してできなかった』と解答しており、問題意識があると感じた。一方、技能の面では少数ではあるが、『声量が足りない・各パートのバランスが悪い』などの合唱に対する意識の高い生徒も見られた。しかし、「合唱することが好きか」の問いに約半数の生徒が「何ともいえない」と答えている。このことにより、学級全体として音楽に対する関心・意欲が決して高いといえない現状であることが予想される。それゆえに音楽の基礎・基本を身につけ、個々の目標を明確にさせることにより、関心・意欲を高めていくことをねらいとして継続して指導してきた。音楽の持つ表現の豊かさや奥深さを学級独自の感性を創造していきたいと考える。

明るく幼さの見える男子に対し、落ち着いたある女子の学級であり、女子のリーダー性を発揮させることにより学習に取り組む姿勢が学級全体として向上しつつある。その結果、年度当初に比較して生徒一人一人の音楽の学習意欲にも向上が見られてきている。

(2) 教材観

本教材は、学習指導要領〔第2学年及び第3学年〕2 内容A 表現「ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」「エ 声部の役割を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫して表現すること」「キ 音色、リズム旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い形式などの働きを理解して表現を工夫すること」「ク 速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫すること」を中心に進めるものである。

今回、教材として取り上げた曲「自分らしく」は、今年度の合唱コンクールの課題曲である。

本校2学年の合唱教材として、曲の構成、各声部の役割りなどから取り組みやすい曲である。曲は、ユニゾン、二部、三部の合唱形態を経験でき、また、それぞれの響きも味わうことができる。詩の内容も心情的に理解しやすいと考える。

(3) 指導観

表現の学習は、歌唱指導を中心に行ってきた。仲間と声を合わせる喜びをねらいに、混声二部、混声三部の小品に取り組んできた。本教材の特徴として、曲の構成、各声部の役割りなど、生徒が理解しやすい曲である。この教材で曲の形式や構成要素を確認し、特徴を理解させることによって、表現を工夫する喜びについて考えさせたい。また、個々の活動の場面を出来るだけ多く取り入れ、進んで表現する姿勢を育てるとともに、表現の技能を高めていき、混声合唱の響きの良さを味わわせていきたい。

3 題材の目標

- (1) 曲の構成や特徴をとらえ、表現を工夫することができる。
- (2) 混声三部合唱の響きや美しさを感じ取ることができる。

4 指導計画

- (1) 範唱の聴き取り。自分の声部の確認(楽譜にマーク) イメージづくり . . . 1時間
- (2) 各声部の音の確認・パート練習 . . . 1時間
- (3) 曲の構成、特徴の理解 . . . 1時間
- (4) 速度や強弱の働きによる表現の工夫 (本時1時間目) . . . 2時間

5 評価規準

	学 習 活 動	関心・意欲・態度	感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
1	範唱の聴取 イメージづくり	楽曲に関心をもち意欲的に聴取しようとしている。			
2	パートの理解 パート練習	自分のパートの練習に意欲的に取り組む。			複数の旋律による音楽の響きの特徴やその仕組みを聴き取ることができる。
3	曲の構成や特徴の理解	曲の構成や特徴に関心をもっている。	音楽の構成要素表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取っている。		
4	速度や強弱の働きによる表現の工夫	速度や強弱の意味や働きに関心をもっている。	速度や強弱の働きの総合的に知覚し、それらの効果を生かした表現を工夫している。	声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱表現をする技能を身につけている。	

6 本時について

- (1) 主 題 ……強弱の働きを生かした表現の工夫。
 (2) 目 標 強弱の働きを生かした合唱の工夫をしよう
 すすんで合唱に取り組み、混声三部合唱の響きを味わう。
 (3) 指導の構想

今まで、生徒一人一人が生き生きと歌えることを目標に、歌唱曲に取り組んできた。合唱の学習においても歌い合わせる喜びをねらいとし、表現の工夫まで至っていない。

本教材は、曲の構成、各声部の役割や特徴を理解しやすい曲である。本時では、曲の構成要素の基本となる強弱記号の意味を理解させ、この曲での働きや効果について個々の考えを引出し、表現に生かしていけるような学習を展開したい。

(4) 具体の評価規準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する生徒への手だて
関心 意欲 態度	・ 曲における強弱記号の意味や働きについて関心をもっている。	・ 強弱記号の意味が理解でき、働きについて考えている。	・ 楽譜で強弱記号を確認し、意味を教える。
感受 や 表現 の 工夫	・ 強弱記号の働きを生かした表現を工夫している。	・ 強弱記号を意識して表現を工夫しようとしている。	・ 楽譜で強弱記号を確認しながら歌えるよう支援する。
表現 の 技能	・ 各声部の役割を理解し、全体の響きに調和させて表現することができる。	・ 自分の声部の役割を生かし、全体の響きを感じながら表現することができる。	・ 自分のパートと他のパートの音に注意しながら表現させる。

7 本時の展開

段階	学習過程	生徒の活動	教師の指導・支援	評価・備考 ○=評価
導入 10分	1 前時までの確認	・前時の学習内容を確認する ・「自分らしく」を合唱する。	・強弱記号、速度記号などを意識させる。 ・生徒の指揮で歌わせる。 ・各パートの不明瞭な箇所を支援しながら歌わせる。	・歌う準備・姿勢の確認 ○意欲的に歌っているか。
	2 学習課題の設定	・学習課題を知る。	・学習カードに目標を書けたか確認する。	○本時の目標が書けたか。
強弱記号の働きを考えて、表現に生かそう				
展開 30分	3 課題の追求	(1)強弱記号の意味について確認する。 (2)強弱記号の働きについて考える。 同じ旋律の強弱の違いについて 声部によって、強弱記号の生かし方について	・前時に調べたことを確認させる。 ・強弱記号の効果についてポイントを絞って考えさせる。 同じ旋律について 合唱の形態・曲の構成によって	・学習カードで確認する。
	4 課題のまとめの合唱	・強弱記号の働き、曲における意味を考えて表現できたかを確認する。	・考えた部分を中心に歌わせる。 ・考えを生かした歌い方ができたかを考えさせる。	○課題を意識して合唱しようとしているか。
終結 10分	5 本時のまとめ	・今日の学習のまとめをする。	○振り返りカードへ記入させる。	○本時の目標の反省を記入できたか
	6 次時の予告	・次時の課題をつかむ。	○次の目標・課題を考えさせる。	○課題をつかむことができたか。